



森のなかま

2025 年 8 月号

NO. 206 (継続 351 号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 黒川 敏史

〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

【自然観察部会主催 森林探訪】 「円海山・大丸山から鎌倉へ」

日時：令和 7 年 4 月 20 日（日） 曇り 9:00～15:30

参加者：31 名、看護師：青木様

インストラクター：L 西岡⑭、小笠原⑩、牧石⑭、久慈⑯、鈴木⑯、小池⑰、伊藤⑱、内田⑱

コース概略：港南台駅－いっしんどう広場－大丸山－横浜自然観察の森－獅子舞谷－永福寺－鎌倉宮

歩行距離 約 10km 標高差：135m

前日までの季節外れな暑さとは一変、曇り空で、歩くにはちょうどいい陽気。

5 班に分かれ、オリエンテーションを行った後、出発。環状 3 号線沿いの消防署脇から、ビートルズトレイルにかかるルートに入りました。カタバミ、ヒメオドリコソウ、オオキバナカタバミなど春を彩る花々の出迎え。木ではトウネズミモチ、キツタ、テイカカズラ、スイカズラ、ツルグミ、アズマネザサなどが道沿いに。アオキの雄株・雌株の花、ウラシマソウ、ミツバアケビ・アケビの葉の枚数、アカメガシワの新芽の色等それぞれの特徴について解説を行いました。

葉がキューティクル*に覆われているサンゴジュを見ました。隣にはヤマグワの実がまだ小さいですがたわわに。少し進むとオオバウマノスズクサが花をつけていました。

大きなサルトリイバラの葉があり、関西では柏餅を包むことが話題に出て、盛り上がりました。少し進むとアラカシが新芽を出しているそばで、タブノキが多くの花をつけていました。目立つ樹皮のマユミ、子供の手という意味もあるコノテガシワ、キブシなどが見られました。

いっしんどう広場手前でトイレ休憩。並んだツバキの中数本ある、葉に特徴のあるものに注目。「キンギョツバキです。」と伝えるととても納得されていました。突然変異の園芸種とのこと。その先では樹皮にタイワンリスのかじりあとが沢山ついていました。



広場では葉の裏が金色に見えるようなスダジイ、イヌシデ、樹皮が特徴的なクヌギ、別名地獄の窯の蓋、弘法草ともいうキランソウ、カクレミノなどを見ました。

この先はタチツボスミレを多く見ることができ、ツルカノコソウ、ヒメウスも静かに咲いていました。幾何学的な形のナツトウダイ、ホウライシダを見つけました。花や実を乗せた葉を筏に見立てて名前が付いたハナイカダを見ました。名前の付け方がしゃれています。てかてかとした明るい黄緑色の葉をつまんでみると独特なおいが。コクサギです。

見晴らしのいい場所の手前でホタルカズラを見ることができました。シロバナハンショウヅルの可憐な花が目につきました。ここから先、大丸山まで足を延ばし、東京湾方面、八景島や三浦半島など見渡すことができ気持ちが良かったです。階段道にはヤマブキが咲いていて上り下りの癒やしになりました。

尾根道に戻り、ホウチャクソウが膨らんでいる脇を通り自然観察センターへ。昼食・トイレ休憩です。昼食時間を使って新しく発行された森林探訪ガイドブックを紹介すると、とても人気がありました。遅めの昼食でしたが、13:25



オオバウマノスズクサ

に出発。オニシバリ、ニワトコ、カラスザンショウ、コモチシダなど見ることができました。

見るだけでなく聞くことでも観察を。タイワンリス、ウグイスの声、木々がこすれあう音、モウソウチクの葉が奏でる音。足下が少しぬかるんでいましたがイロハモミジ、イチヨウの大木が目立ち、「紅葉の頃ぜひまた来たい。」という声がありました。

ヒメリュウキンカの黄色い花、特徴のあるジュウモンジシダの観察もしました。

午前中とは違うクマザサの中を進んでいくと、少しずつ水が流れになるそばで小さなヨゴレネコノメ、ヤマネコノメソウを発見。少し足を運ぶと舗装された道路へ。シャガとオオアラセイトウが迎えてくれました。カラスノエンドウやムラサキケマンを地面近くで観察していると、土手の途中にタツナミソウが。さらに進み、永福寺跡へ到着。全体の安全を確認後アンケートにご記入いただきました。鎌倉宮でほぼ予定時刻に解散。

20000 歩以上歩いて達成感があつた、いろいろな植物や自然の様子を観察することができて良かったなど、満足し充実感を持てただけた観察会となりました。

(記 内田 千春^⑧、写真 鈴木 康浩^⑩、小池 宗子^⑪) *クチクラ層をキューティクルに例えました



大丸山山頂から

【森林技術部会主催】

下刈り研修会

日時：令和 7 年 5 月 18 日（日） 9:30～15:00 曇り

場所：南足柄市 塚原ボランティアフィールド（2021 年度 BU 研修で植栽したエリア）

講師：大橋^①、斉藤^③、森本^⑦、石井^⑤（統括）

参加者：滝澤^⑤、宮田^⑪、内田^⑬、大見^⑮、内田^⑰、三浦^⑱、大川^⑲、川島^⑳、繁山^㉑、鈴木^㉒、田中^㉓、平出^㉔、渡邊^㉕

今回の下刈り研修会の目的は作業中の安全確保、動作、実技の再確認、インストラクターとしての技術と知識の向上ということで、実施されました。前日の激しい雨で不安でしたが、作業中は太陽も顔を出してきて、絶好の下刈り日和でした。

統括講師のお話と、講師、参加者の自己紹介。各自目標を発表します。統括講師からは研修を受け、沢山経験し、各々の疑問を解決してください。そして、楽しくやることが上達の近道というお話でした。

現場は駐車場の目と鼻の先、4 年前にブラッシュアップ研修会で広葉樹を植栽した場所です。研修会に参加し植栽したメンバーも数名おり、愛着の湧く場所だとのこと。道から見下ろすと草木が繁ったあまり広くない斜面です。中は人の姿も確認できない位、鬱蒼としています。

4～5 人ずつの班で下刈りを始めましたが、植栽木よりも背の高い桑の木やススキの大株が目の前に立ちはだかり、大鎌よりも鋸、剪定鋏の出番の方が多かった様です。植栽木に絡んだ蔓も除去し遠くの人も確認できる位次第に明るく開けてきました。

昼休憩を挟み、切残しもなくしっかりと下刈りが出来ました。作業中、移動中、休憩中、色んな期の人たちと情報交換をしたり、虫や花の観察をしたり充実した一日でした。

終わりに全体が見渡せる様になった現場でさわやかな風にあたりながらの集合写真。達成感を得たいい笑顔でした。問題を解決した人、更に問題が発生した人様々でしたが色々な研修に参加したいと感じました。楽しくできたので少しは上達したかと思えます。

(記 田中 和代^㉓、写真 石井 裕^⑤)



シリーズ 『やま』の色々

第9回 生物多様性について考えてみます⑨

人工林と天然林

公益社団法人 大日本山林会参与 桜井尚武 氏

人間の生存空間にあるおおよそのものは先ず無生物と生物に分類できます。生物は動物、植物、菌類（キノコ）に分けて認識出来ます。この分類に入らない微生物やウイルスなどもほかの物質や生命体と複雑で大きな影響を与え合う関係を持っていることが逐次解明されて、今は幾通りもの分類法が提案されていますが、この欄では最初に述べた動物、植物、菌類という分類を基礎にした生物多様性について考えていきます。

この分類法が植物のまとまりが環境との関係を表すものとして解りやすいために広く用いられてきました。環境として水分と温度の違い（傾度）に着目して、様々な地域にある植物集団のまとまりがこの傾度のどの辺に位置するかを表わすものを作り植物群系と名付けました。植物集団は動物の生存に必要で深い係わりがあるため動物を含めて生物群系（バイオーム）と呼ぶこともあります。また、植物群系だけをバイオームという場合もあります。世界各地域ごとに植物の種類が違うのが普通ですが、それぞれの種の先祖は共通のためか植物群系を構成する種は乾湿と寒暖の物理的環境に応じて似たようなまとまりの植生型として図1のように表現できます。

同じ植物群系の中でも植物群は基岩や土壌条件、斜面の程度などにより違いがありますが些末なものと解釈されます。でもこの些末な違いが、広大な自然に対してはごく小さな存在である私たち普通の人間にとって大きな違いと映ります。訓練を十分に経ていない普通の人間である私にとっては植樹された人工物の森林はそれなりにまとまりや意味が解るものの、手付かずの原生的な森林や長い間放置されて自然に育っている植物群系のかげらの身近な森林の意味付けをするのは難しく感じます。

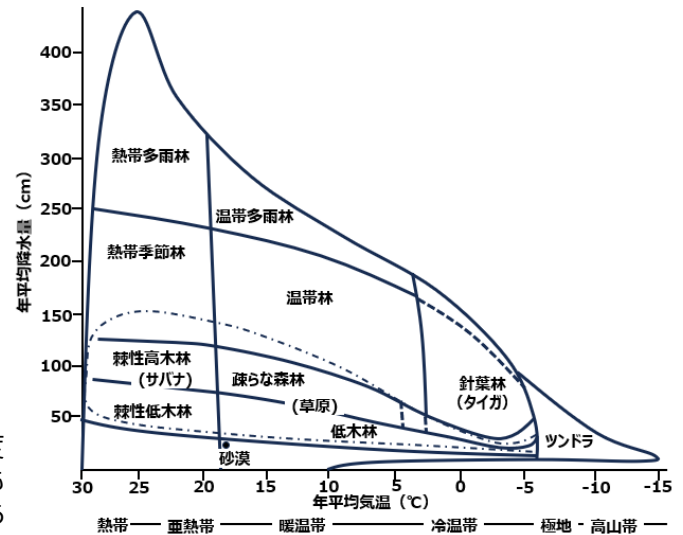


図1_降水量(Y軸)と気温(X軸)でみる世界の植生の分布

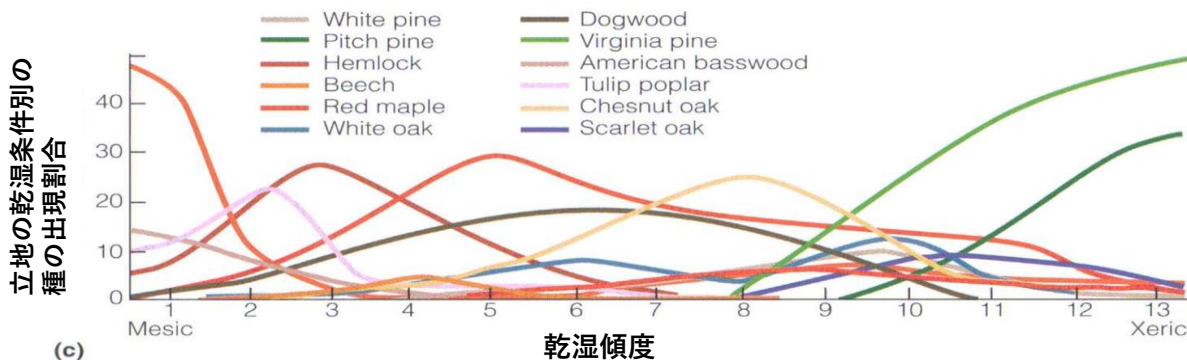


図2 _グレートスモーキー山地の湿性地乾燥地別成立樹種頻度分布

私が学生時代に森林生態学の参考書として先輩に教えられた「Vegetation of the Great Smoky Mountains (Ecological Monographs, 26: 1-80, 1956), by Robert H. Whittaker」という論文は生態学に興味を持つ人には馴染みがある方いるでしょう。アメリカ東部のグレートスモーキーマウンテンズ国立公園の天然林の植物分布特性研究論文です。その成果の1例を紹介します。山の標高別（気温別）に水分傾度（土壌水分の多少）とその立地に出現する樹種の割合を調べたものでこの図は温帯相当部のものです。英語のままの図で恐縮ですが、pine=マツ、Hemlock=ツガ、Beech=カンバ、maple=カエデ、oak=ナラ・カシ類、Dogwood=ハナミズキ、basswood=シナノキ、Tulip popular=ユリノキ、MESIC=湿性、XERIC=乾性と読み替えて下さい。

それぞれの種は立地の水分の多少に応じて分布割合の多少が規則的に変わっていますが最適地や分布範囲が同じ割合を示す種はなく、少しずつずれています。これは山裾の低地でも峰に近い高いところでも同じような結果でした。このことから種毎に分布の最適地が異なる（この場合は水分条件の多少という条件下で）、種が少しずつ違った場所を選ぶということがわかり、これが種多様性が生じる理由の1つと考えられました。

桜井先生のご執筆内容にご感想やご質問がありましたら先生のアドレス hayachines@yahoo.co.jp にお送りください！

活動短 信

今回の掲載は R7 年 5 月 17 日から R7 年 6 月 12 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

8 月(葉月)(旧暦 7 月文月)の
二十四節気、七十二候、鳥こよみ

立秋 8/7 処暑 8/23、大雨時行(たいうときどきふる 8/2~8/6)。夏の最後の候。大雨は集中豪雨や夕立を意味しますが、昔より激しくて注意が必要です。鳥こよみ: 夏らしく高山の鳥を。ハイマツ帯を歩いていて耳にする複雑な鳴き声の主はイワヒバリ。灰色の頭に茶色と黒のボディは目立たず、側で囀っていても姿は見えず。でも、人間に対して警戒心が薄いの、慣れてくれば至近距離で写真撮影できます。

活動短 信への投稿概略フォーマットと略語の説明

以下のフォーマットに沿って記載をお願いします。
本文と写真は作成せずに送付してください。送付先は最終ページに掲載。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付: 令和 x 年 x 月 x 日(曜日)時間、天気
場 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)
参 参加者 人数
県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ
財 (公財) かながわトラストみどり財団、[看] 看護師
ス 例 小田原市森林組合 XX 様
例 川崎市公園緑地協会・XX 様
イ インストラクター① (○数字: 期) [研] 研修枠
活 活動内容 例 午前 間伐、午後 クラフトと自然観察

◆ ネットワーク活動

令和 7 年度緑のレンジャー講座第一回

日 令和 7 年 5 月 17 日(土) 10:00~12:00 雨
場 鎌倉中央公園管理事務所 2 階研修室
参 22 名
ス 公財) 鎌倉市公園協会 千田様、内田様、住友様
イ L 國弘⑭、石垣⑮

風雨激しい天候の中、鎌倉市内の緑を守る熱意ある方々が集いました。

1. オリエンテーション

鎌倉市公園協会の千田様より年間スケジュール説明がありました。

2. 森林インストラクターリーダーによる講義

テーマ: 森林のはたらき(森林の機能と保全管理の必要性)

下記について講義をしました。

- ・ 森林の機構

- ・ 林野庁による森林の機能
- ・ 生物多様性を視野に入れた自然の見方
- ・ 神奈川県及び鎌倉市の森林の保全を支える施策・計画
- ・ 鎌倉市の市民と行政の連携による森林整備事業の実績

- ・ 鎌倉市緑の基本計画に基づく「緑の有する 7 つの機能」
- ・ 当講座のフィールドとなる鎌倉中央公園および散在ガ池森林公園に求める緑の機能と植物・設備の維持管理方針

- ・ 森林保全のポイント
- ・ 安全対策

3. 野外観察

雨天のためエントランスから見える樹林地を観察し、スギ林、ヒノキ林、常緑広葉樹林、落葉広葉樹林のモザイク状の植生と特徴について説明しました。

これから取り組む活動の基本になる講義内容に、大きく傾く方々や熱心な質問をされる方もいて来年度からの活躍に期待する初講座となりました。

(記・写真 石垣 桃栄⑮)



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

◆ アコム株式会社様

アコムの森(神奈川)活動

日 令和 7 年 5 月 18 日(日) 10:15~14:45 曇り
場 県立 21 世紀の森
参 18 名(大人 18 名、子供 0 名)
県 神奈川県水源環境保全課 藤原主査、星主事
イ L 岡村⑯、大谷⑰、伊藤⑱
活 竹林整備

かながわしずくちゃん Twitter は下記 URL で見るすることができます。



https://twitter.com/kanagawa_sizuku

◆ J&T環境株式会社様

新入社員研修

日	令和 7 年 5 月 27 日 (火) 10:00~14:00 曇り
場	県立 21 世紀の森
参	17 名
県	神奈川県環境農政局緑政部 水源環境保全課 星様 秋本様
イ	L 石垣⑮、西出⑫、牧石⑭、藤巻⑬
活	午前 間伐、午後 自然観察

◆ 県民参加の森林づくり 3 (竹林整備)

日	令和 7 年 6 月 1 日 (日) 8:30~13:00 晴れ
場	小田原市小竹 (住宅供給公社有林)
参	45 名
財	古舘様、志村様 看 大谷様
イ	L 末原⑮、宮下⑫、渡辺⑫、斉藤⑬、伊東⑭、 佐々木⑮、祐谷⑯、池尻⑰、中鉢⑰、兵頭⑰、松原⑰、 内田⑱、小林⑱、菅原⑱、藤巻⑱、松本⑱

予備日に順延となった小田原市小竹での竹林整備。前日の雨とは打って変わって快晴の下での開催となりました。参加者は事前申込みの約半数となりましたが、その分、集合や移動、オリエンテーション等も小気味よく進行し、予定通り現場での活動を開始しました。

活動エリアは小径(概ね 10cm 未満)のマダケが密生する斜面で、枯れた稈も多く、足場の確保が難しい場所でしたが、班当たりの人数が少ないことで担当インスト



ラクターとの連携も良く、伐倒、玉切り、枝払い、集積(稈の移動)と次から次へと作業をこなしていきます。当日はタケノコ取り放題ということ(但し、取った分は放置厳禁!)で、合間を縫って、タケノコ収穫もしっかり行われました。参加者の協力のお陰で、全体を通じとても効率良く且つ安全に活動を終えることができました。一方で、現場に繁茂したマダケや竹稈が枯れたまま放置されている状況はまだまだ整備の余地があり、さらなる荒廃を防



ぎ地域と共存していくために、これからも地元や県民の皆さんによる協力の必要性を感じました。

活動を終わると、差し入れにカート缶をご提供いただき、昼食

後は戦利品(タケノコ)を手に帰途につきました。

(記 末原 興一 ⑮、写真 財団 古舘様)

◆ 株式会社日新・森林再生パートナー活動

日	令和 7 年 6 月 6 日 (金) 10:00~14:00 晴れ
場	やどりき水源林
参	4 名
県	神奈川県 水源環境保全課 村松様
イ	L 藤田⑰、石垣⑮
活	活動内容 午前 間伐、午後 自然観察

◆ 株式会社アルバック・森林再生プロジェクト

日	令和 7 年 6 月 7 日 (土) 9:30~13:00 晴れ
場	県立 21 世紀の森
参	参加者 41 名
県	神奈川県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課 副課長 長井様、主事 星様
イ	L 田島⑰、西出⑫、牧石⑭、西岡⑭、森本⑰、山口⑱
活	間伐、クラフトと自然観察

◆ 寒川町立寒川小学校

環境・エネルギー学校派遣事業~かながわ環境教室~

日	令和 7 年 6 月 9 日 (月) 9:40~12:20 曇り
場	寒川町立寒川小学校 (校庭、教室)
参	2 年生 3 クラス 74 名、先生 3 名
イ	L 井出①、谷川⑪、大原⑬、國弘⑭、石垣⑮、 小国⑰、小池⑰、川口⑱、平出⑱、藤巻⑱
活	「土の中の生き物ウォッチング」 2 時間目からスタート。事前に校庭に仕掛けたエサつきトラップを回収し、周りの土も採取。 3 時間目、教室でトラップや土の中から生き物を探し出し、名前を調べ集計表にシールを貼付。 4 時間目、見つかった生き物を発表し、リーダーより土とのかかわりをスライドを使って説明。

◆ 第 4 回県民参加の森林づくり

日	令和 7 年 6 月 12 日 (木) 8:40~13:00 曇り
場	秦野市千村 (頭高山)
参	19 名
財	トラストみどり財団 豊丸様・古舘様
看	小林様
ス	秦野市様、秦野市森林組合様、千村共有地管理組合様、 頭高山を愛する会様
イ	L 西岡⑭、滝澤⑤、上田⑩、松本⑪、大原⑬、水野⑭、 鈴木⑭、飛田⑮、小林照⑯、内田⑱、大川⑱、繁山⑱、 堤⑱、中島⑱、平出⑱、藤巻⑱
活	下刈作業

やどりき水源林ミニガイド

「やどりき森の案内人」

林道工事の延期に伴い、一般車両の通行止め解除まで森の案内人を中止いたします。案内再開については、以下のリンクをご参照ください。

<https://ktm.or.jp/yadoriki/>

「やどりき水源林ニュース」

過去号は上記リンク先からご覧になれます。7月号は「春に咲き誇った花々がいま実を实らせようとしています。『次の世代へつなぐ』をやどりきで感じてみませんか。」

やどりき水源林ニュース 第223号 2025年7月 1/2
529ヘクタールの森の海からのホットな情報発信

やどりき水源林ニュース



森林探訪ガイドブック 好評販売中！

『森林探訪ガイドブック』は、かながわの自然を愛する森林インストラクターが力を結集して企画・編集したガイドブックです。

A5フルカラー52頁、動植物や史跡等の写真多数、地図、高低差図、ミニ動画ガイド付きです。在庫がなくなり次第、販売終了となりますので、お早めに購入申込みしてください。定価：相模川以西、相模川以东 各700円（税込）



やどりき水源林問合せ：(公財)かながわトラストみどり財団

TEL：045-412-2255 / FAX：045-412-2300

<https://ktm.or.jp/> Mail: midori@ktm.or.jp

かながわ森林インストラクターの会

<https://www.forest-kanagawa.jp/> Mail: kinst0981@friend.ocn.ne.jp

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座00230-0-2454 かながわ森林インストラクターの会
宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回／1年間お届け致します。

森のなかまは過去号もご覧になれます

(ホームページ) <https://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。原稿は随時受付けています。

<広報全般お問い合わせ>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com

<電子配信会員向け担当>

小池 宗子
muneko-sakura@outlook.jp

<本誌、別冊原稿送り先>

河西 静夫
skasai0618@gmail.com
小国 一男
ka-oguni@ab.auone-net.jp

受信漏れを防ぐため本誌、別冊とも上記に2名にお送りください



◇ 編集後記 ◇

★ 6月号の続き) 木材の取引は基本体積で行われます。旧来木材で使われた単位は”石(コク)”で、1石 = 1尺 X 1尺 X 10尺 これをm3(立法メーター、立米(りゅーべいと読む)に直すと (30.3cm X 30.3cm X 303cm)/1,000,000 = 0.278 m3単価表記は 石単価 = m3単価 / 3.6 (1/0.278) なのである時の相場例にすると72万円/m3 = 20万円/石となります。(尺貫法(1959まで) ⇒ MKSAメートル法 ⇒ SI (国際単位) を理解できる希少世代の松本)

★ 今月も大阪・関西万博に行ってきました。会場のシンボルである世界最大級の木造建築物「大屋根リング(全周約2km)」は圧巻。国産スギやヒノキ、外国産オウシュウアカマツの建材が日本の伝統的な貫(ぬき)結合と現代工法を融合して作られたそうです。コロナや紛争で分断が進む時代において、世界をひとつにつなぎあわせるという理念が込められたリング上を颯爽と歩いてきました。(大友)

★ 「クマにあったらどうするか(ちくま文庫)」は、アイヌ最後の熊猟師、姉崎 等氏の話を書きし私の愛読書。ヒグマの生態などが生き生きと描かれていて、読むたびに新しい発見があります。今夏、クマに襲われる被害が各地で報告され、改めてこの本を読み始めました。「クマは滅多に人を襲う動物ではない」と姉崎さんは語っていますが、どうも最近では違うようですね。童謡「森の熊さん」ほど恐ろしい歌は無いと(英語版はさらに怖い) 常々思っている私は、その日が来てしまった時にどうするか目下シミュレーション中です。(河西)

編集人：河西 静夫
広報部：黒川 敏史、松本 保、
笠原 かずみ、長尾 晴子、小林 照夫、
大友 博道、小国 一男、小池 宗子、
森本 利弘
支援：大原 正志、吉田 郁夫